



第4回目からは巨大な灯明アートも製作するようになった(写真は博多小学校の校庭をキャンバスに、中学生の絵をもとにして、何千個もの灯明を使った作品)

灯明は“まちおこし”の原点

「火」のある暮らしの現場から

博多灯明

ナビゲーター
NPO博多まちづくり事務局長
稲舂 積
Tumoru Inamasu



灯明が行われるエリアは、北はベイサイドプレイス・旧大浜小学校から、南はキャナルシティ博多・旧御供所小学校まで広がっている(平成8年9月に第10回福岡市都市景観賞を受賞)。特に博多川では川面に千から二千個も灯明が浮かべられ、幻想的な景観を生みだしている



灯がともる時間はわずか3時間あまりだが、短いだけに、逆に、人々の印象に残るイベントとなっている

”火”を灯すことが
まちをおこしに繋がる

福岡市の中心に位置する博多部は、大都市特有のドーナツ化現象によって、四〇年以上前から住・商の流出が進み、街としての活力が失われつつあった。「このままじゃ博多がのつなる」という、一人の高齢の方のつぶやきが、NPO博多まちづくり誕生のきっかけになりました」と事務局長の稲舛積さん。その言葉に触発された有志が、まちの活性化に取り組むことを目的に、博多部の四地区それぞれで「まちづくり協議会」を設立し活動を続け、その後、平成六年、それらが一つにまとまり、「博多部まちづくり協議会」が誕生した。

その記念イベントとして行われたのが、博多灯明ウォッチングだ。かつて博多の神社や寺で行われていた寺社仏閣に灯明を並べて家内安全などを祈願した「千灯明」を再現したもので、「最初は一回だけのつもりでした」と稲舛さん。だが大変好評だったため、次年度も開催することに。「その後、どんどん規模が大きくなり、参加者も見学者も増えて、今では止めるに止められなくなりました」。

博多灯明は、博多の町の通りや公園などを灯明でライトアップするもので、「風に揺らぐ炎をカラフルな灯明の紙袋を透して見ると、この火明かりが何ともいえず心を癒してくれます」。参加者は、住民はもとより、行政の職員から地域外から来る博多部応援



2004年12月5日、長崎県諫早市で行われた第1回「いさはや回廊灯明まつり」の様子。北海道や東京お台場、愛媛の松山市(松山大学)などでも開催され、博多で生まれた「灯明」が全国へ広がっている



「博多町家ふるさと館」では、参加者に灯明が一つずつ手渡され、各自が冷泉公園まで持って歩き、そこにあるモニュメントに思い思いに飾り付けをする。また当日は、周辺の企業などの協力で電光看板や街頭が消されたり、ビルのブラインドが下ろされたりもする(写真は福岡市役所前の中央公園)



ナビゲーターの稲舛積さん



福岡市の中央に位置する「キャナルシティ博多」は、若者に人気の高いスポット。灯明はここでも行われる

団などまで幅広い。「当日の設営作業だけでなく、資金集めをはじめ、灯明アートの製作、校庭の草刈りなど世代や立場を越えて多くの人が一緒になって汗を流します」。

灯明の輪は、博多部の枠を超え、東京のお台場や、四国の松山、長崎とどんどん広がっている。稲舛事務局長は、何万本もの灯明は、市民の協力がないと実現不可能な、典型的な市民参加型のイベントであり、「まちおこし」の原点と言えるものだから、まちおこしを考えている都市には大変参考になると思います」。この言葉のとおり、まさに灯明は、「火」が持つ力を再認識させてくれる好事例と言えるだろう。

(文責:CEL編集室)

CEL

NPO 博多まちづくり

〒812-0029 福岡市博多区古門戸町5-18
TEL:092-271-5028 FAX:092-262-1420
URL:http://www.hakatabu.net
灯明専用URL:http://toumyou.hakata.net/
mail:office@hakatabu.net